

平成29年観光統計概要（速報値）について

平成29年1月～12月

1 観光客入込数は、過去最高の6,229万人。平成28年比 146万人増加。

※四捨五入の関係で一致しない場合があります。

- 県内全体の観光客入込数は6,229万人で、前年と比べ、146万人の増加（+2.4%）となり、東日本大震災前のH22年（6,129万人（過去最高の観光客入込数））を上回り、過去最高の観光客入込数を更新しました（H22年比+101万人、+1.6%）。
- H28年比では、県内ほぼすべての圏域で増加しており（特に気仙沼圏域での増加が顕著（H28年比+32.8%））、観光客入込数が増えた要因として、夏及び冬の観光キャンペーンの展開による成果、観光集客施設の新たなオープンなどが挙げられます。
- H22年対比では、「仙南」、「仙台」などの圏域でH22年の水準を上回っており、震災により甚大な被害を受けた「石巻」、「気仙沼」の各圏域については、それぞれ、H22年比で80.7%、79.2%まで回復しております。

【H28年比増】

- ・気仙沼圏域：南三陸さんさん商店街（+36.6万人）及びハマレ歌津（+19.1万人）本設移転による増（いずれも南三陸町）
- ・登米圏域：H29.4にオープンした道の駅三滝堂（登米市）+33.3万人

【H28年比減】

- ・栗原圏域：栗原市細倉マインパーク（栗原市）▲2.2万人、栗駒山・いわかがみ平（栗原市）▲1.8万人

【H22年比増】

- ・仙南圏域：H23年以降に新たなイベントが開催されるようになった船岡城址公園（柴田町）+18.1万人

【H22年比減】

- ・石巻圏域：石巻川開き（石巻市）▲15.2万人、海水浴場未再開▲12.9万人
- ・気仙沼圏域：岩井崎園地（気仙沼市）▲39.9万人、海水浴場未再開▲19.4万人

（単位：千人）

	H22	H28	H29	H29年比	
				H22年比	H28年比
仙南圏域	5,672	6,091	6,196	109.2%	101.7%
仙台圏域	33,680	35,042	35,348	105.0%	100.9%
大崎圏域	9,974	9,440	9,448	94.7%	100.1%
栗原圏域	1,132	2,007	1,874	165.5%	93.4%
登米圏域	2,772	2,744	2,982	107.6%	108.7%
石巻圏域	4,432	3,355	3,577	80.7%	106.6%
気仙沼圏域	3,624	2,160	2,869	79.2%	132.8%
合計	61,286	60,838	62,294	101.6%	102.4%

※四捨五入の関係で一致しない場合があります。

参考（夏期における観光客入込数 対平成28年比・平成22年比）

	1月～6月	7月～9月 ※夏CP「涼・宮城の夏」展開期間	10月～11月	12月 ※冬CP「みやぎ湯渡軍団」展開期間	年計
H28年比	103.9%	104.2%	94.9%	103.2%	102.4%
H22年比	107.0%	97.9%	94.9%	102.7%	101.6%

※四捨五入の関係で一致しない場合があります。



<参考>

対H28増減

夏期の台風・長雨による減 ▲125万人

例) 仙台七夕祭り ▲49.7万人

（最終日は台風の影響により勾当台公園市民広場閉鎖）

実質増 +271万人

夏キャンペーンによる誘客効果：184.1万人

東北絆まつり：+45.2万人

第11回全国和牛能力共進会宮城大会：+41.7万人

2 宿泊観光客数も、過去最高の 953 万人。平成 28 年比 31 万人増加。

※四捨五入の関係で一致しない場合があります。

- 県内全体の宿泊観光客数は 953 万人で、前年と比べ 31 万人増加（+3.4%）しました。
- 東日本大震災前の H22 年との比較では、148 万人（+18.4%）多くなっています。
- H28 年比の全体の傾向としては、夏期の天候不順など、全体を押し下げる減少要因があったにもかかわらず、宿泊施設の新設・再開や各種観光施策の取組等により H28 年を上回り、過去最高を更新しました。
- 圏域別にみた場合、H28 年比では、仙南圏域、仙台圏域、石巻圏域及び気仙沼圏域において増加しており、特に石巻圏域での増加が顕著でした（H28 年比+49.0%）。
- H22 年比では、大崎圏域及び気仙沼圏域が震災前の水準を下回っていますが、気仙沼圏域では 95.9%まで回復しました。

【H28 年比増】

- ・ 仙南圏域・仙台圏域：宿泊施設の新規オープン等による増
- ・ 石巻圏域：宿泊施設数の増加等による増

【H28 年比減】

- ・ 大崎圏域：秋の台風による宿泊キャンセルによる減
- ・ 栗原圏域：8 月から 9 月にかけての長雨による減
- ・ 登米圏域：震災復興関連の需要の減少によるホテル宿泊者の減

【H22 年比増】

- ・ 栗原圏域：H20 年の岩手・宮城内陸地震からの回復や日本ジオパーク認定（H27.9）等による増

【H22 年比減】

- ・ 大崎圏域：震災前と比べ、湯治客が減少していることや宿泊施設の減少等による減

（単位：千人）

	H 2 2	H 2 8	H 2 9	H28 年比	
				H22 年比	H28 年比
仙南圏域	607	656	698	115.0%	106.4%
仙台圏域	5,649	6,828	7,005	124.0%	102.6%
大崎圏域	927	856	850	91.7%	99.3%
栗原圏域	87	123	116	133.3%	94.3%
登米圏域	26	89	75	288.5%	84.3%
石巻圏域	311	245	365	117.4%	149.0%
気仙沼圏域	441	420	423	95.9%	100.7%
合計	8,047	9,217	9,532	118.4%	103.4%

※四捨五入の関係で一致しない場合があります。

年次別宿泊客数の推移

